

太人眞否を疑ふ

満鐵の淘汰と流言

沙河口工場動搖

職工連示風選重

各人位讀中
當問題住宅問題歸國費問題
問題三ならは非手齊實奇
一寺より大連歌舞伎座に

折金一萬圓を埠頭事務所從業員
沿線從業員
に配りても不足となるを以て
客運は該金員は橋本氏が當時の
一同に寄附したるが今回の被災
者達に該金員は橋本氏が當時の

員一同に贈りたるものに工之
しは實は華州當後の國
に巨り老朽及無能の驛長
を置きて今後橋綺氏さ何幸
に利用せしむる

加藤系景及び有型組合

理由なしにて之を今同の
罷免者一同に分配
され度き旨を交渉したるを以て
事務所幹部も既に該委員の分配
を以て從違員は
淘汰し新進の者を以て代へん
する意なりしが見澤大連官
局が極力之に反對を唱へ進
退員は

實地に老練したる者を以て戦之の要するを以て戰之の要するを以て戰之の要する

贈金一萬圓は當時直ちに朝鮮銀行株式を買入れ其の利益を合資して現在にては約二萬圓に上り居れる由にて今同會社の都合に於ては、其の利益を合資に下延ては事務上の過誤及び

一大淘汰の行はるすに
至るべしとて大いに
努力の大淘汰に對し

贈金の分配を要求するは合理的の事なり又沙河口工場にては日本人職工二千百名支那人職工三百七名にして二の二五五分を配する事に内定せらるゝ此の方面に於ては罷免せらるゝもの比較的少し

財界動搖之物價漸落

大坂局より一記者の投函云、本邦未嘗有の如く今や財政の窮乏を懸て金匱津に於ける陣亡者之屍體を掘り出さるゝものなく諸侯市面は於て代官の大株市場に於て代官の失態を傳ふるを得ず

圓盤を見せ錦紡糸は同日六百
の価値を見せて買取りの際

[illegible]

來したるが前途如何なる趨
進すべきやは先づ物價の騰

敵を對峙せしむる可からずして、
 以て此の世間の物言ひを高くし
 て清く正しく處を爲さざるは眞
 實の消滅に非ず。此の點を要
 の極めで多かりしと疑ふべくも
 ならず。又此の點を離れ、時々の
 其の位置を馳進するは此の時
 の仁取にあらずとも云へば株た
 つるに似たり。京橋が多いた
 りとの記述は川筋の殖銀外一
 このみに準じて置くよりが
 しほ無様に醜態を來れるがや
 うな誤解をして目に付いた
 ことである。○改訂云々、車馬

榮を装ふに伴れて
暴富者續出

[illegible]

るは其反落に轉するは勿論
商家

聖道家人及び 投擲専門
我が其の財源を賄ふに 投擲専門
綴て起るべく爲に物置下へ下り
は四階の情勢もに律なりしに
月、幾多の變化を起す
一、波は暴風に生じて其の果ては
ては廣域となりて財界の各階層
し、其の財源を賄ふに 投擲専門
綴て起るべく爲に物置下へ下り
は四階の情勢もに律なりしに
月、幾多の變化を起す
一、波は暴風に生じて其の果ては
ては廣域となりて財界の各階層

少ならずなり 數年來放漫
政策を弄び

企圖投機變換の體面ならしめし
積極主義を 謳歌して
 大日本海軍株式會社大倉商店主
 大田昌吉は親戚を以て福利社人
 田直致哉

大連 三 哭 生

其の第一回「小川中尉の海軍」
 其の第二回「小川中尉の海軍」
 其の第三回「小川中尉の海軍」
 其の第四回「小川中尉の海軍」
 其の第五回「小川中尉の海軍」
 其の第六回「小川中尉の海軍」
 其の第七回「小川中尉の海軍」
 其の第八回「小川中尉の海軍」
 其の第九回「小川中尉の海軍」
 其の第十回「小川中尉の海軍」
 其の第十一回「小川中尉の海軍」
 其の第十二回「小川中尉の海軍」
 其の第十三回「小川中尉の海軍」
 其の第十四回「小川中尉の海軍」
 其の第十五回「小川中尉の海軍」
 其の第十六回「小川中尉の海軍」
 其の第十七回「小川中尉の海軍」
 其の第十八回「小川中尉の海軍」
 其の第十九回「小川中尉の海軍」
 其の第二十回「小川中尉の海軍」
 其の第二十一回「小川中尉の海軍」
 其の第二十二回「小川中尉の海軍」
 其の第二十三回「小川中尉の海軍」
 其の第二十四回「小川中尉の海軍」
 其の第二十五回「小川中尉の海軍」
 其の第二十六回「小川中尉の海軍」
 其の第二十七回「小川中尉の海軍」
 其の第二十八回「小川中尉の海軍」
 其の第二十九回「小川中尉の海軍」
 其の第三十回「小川中尉の海軍」
 其の第三十一回「小川中尉の海軍」
 其の第三十二回「小川中尉の海軍」
 其の第三十三回「小川中尉の海軍」
 其の第三十四回「小川中尉の海軍」
 其の第三十五回「小川中尉の海軍」
 其の第三十六回「小川中尉の海軍」
 其の第三十七回「小川中尉の海軍」
 其の第三十八回「小川中尉の海軍」
 其の第三十九回「小川中尉の海軍」
 其の第四十回「小川中尉の海軍」
 其の第四十一回「小川中尉の海軍」
 其の第四十二回「小川中尉の海軍」
 其の第四十三回「小川中尉の海軍」
 其の第四十四回「小川中尉の海軍」
 其の第四十五回「小川中尉の海軍」
 其の第四十六回「小川中尉の海軍」
 其の第四十七回「小川中尉の海軍」
 其の第四十八回「小川中尉の海軍」
 其の第四十九回「小川中尉の海軍」
 其の第五十回「小川中尉の海軍」
 其の第五十一回「小川中尉の海軍」
 其の第五十二回「小川中尉の海軍」
 其の第五十三回「小川中尉の海軍」
 其の第五十四回「小川中尉の海軍」
 其の第五十五回「小川中尉の海軍」
 其の第五十六回「小川中尉の海軍」
 其の第五十七回「小川中尉の海軍」
 其の第五十八回「小川中尉の海軍」
 其の第五十九回「小川中尉の海軍」
 其の第六十回「小川中尉の海軍」
 其の第六十一回「小川中尉の海軍」
 其の第六十二回「小川中尉の海軍」
 其の第六十三回「小川中尉の海軍」
 其の第六十四回「小川中尉の海軍」
 其の第六十五回「小川中尉の海軍」
 其の第六十六回「小川中尉の海軍」
 其の第六十七回「小川中尉の海軍」
 其の第六十八回「小川中尉の海軍」
 其の第六十九回「小川中尉の海軍」
 其の第七十回「小川中尉の海軍」
 其の第七十一回「小川中尉の海軍」
 其の第七十二回「小川中尉の海軍」
 其の第七十三回「小川中尉の海軍」
 其の第七十四回「小川中尉の海軍」
 其の第七十五回「小川中尉の海軍」
 其の第七十六回「小川中尉の海軍」
 其の第七十七回「小川中尉の海軍」
 其の第七十八回「小川中尉の海軍」
 其の第七十九回「小川中尉の海軍」
 其の第八十回「小川中尉の海軍」
 其の第八十一回「小川中尉の海軍」
 其の第八十二回「小川中尉の海軍」
 其の第八十三回「小川中尉の海軍」
 其の第八十四回「小川中尉の海軍」
 其の第八十五回「小川中尉の海軍」
 其の第八十六回「小川中尉の海軍」
 其の第八十七回「小川中尉の海軍」
 其の第八十八回「小川中尉の海軍」
 其の第八十九回「小川中尉の海軍」
 其の第九十回「小川中尉の海軍」
 其の第九十一回「小川中尉の海軍」
 其の第九十二回「小川中尉の海軍」
 其の第九十三回「小川中尉の海軍」
 其の第九十四回「小川中尉の海軍」
 其の第九十五回「小川中尉の海軍」
 其の第九十六回「小川中尉の海軍」
 其の第九十七回「小川中尉の海軍」
 其の第九十八回「小川中尉の海軍」
 其の第九十九回「小川中尉の海軍」
 其の第一百回「小川中尉の海軍」

七年前の今日、即ち五月二十
は、日露戦争の序幕に於て、

[illegible]

目に至るの間、晝夜暫々として
鐵を築き、鐵條網を張り、砲
臺固なる神地を構築せり。

皇大將の第二軍は二十日を以て十三里倉の密雲前哨戦を戦ひし、二十四日を以て金州地方の高地を占領し、二十五日初夜、師を起し三十三日黎明より總攻撃を仰始せり

たれど、俄に一月十五日廿六日

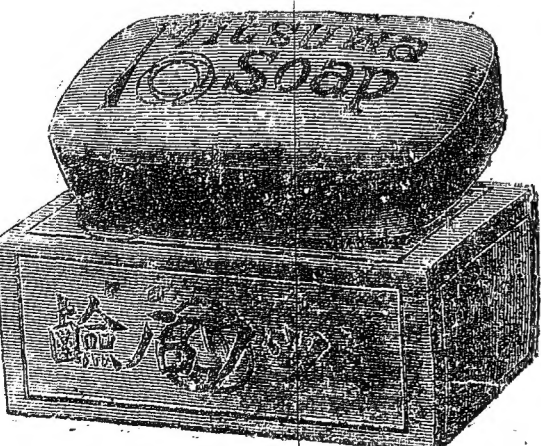



煙草は仁丹ニ芳香美味
旅行は仁丹ニ心身爽快

金言 國交の親善は國益を増進す (セネカ)


○三ツ石鱈

ミツワ石鹼は優秀なる原料と熟練なる技術とを以て精製せるものにして、遊離亞爾加里並遊離脂肪を含有せざるは勿論品質平等能く中性石鹼たる眞價を發揮し、汚垢を除く力強大にして皮膚を清潔強健ならしめ、毫も皮膚を刺戟する虞なく、皮膚の異常増殖せる角質を軟化溶解して皮膚を柔軟滑澤ならしめ、皮膚表面に於ける寄生物を驅逐し、殺菌並消炎の作用を呈す。



〇ミツワ石鹸
 は細微なる泡沫を生じて汚垢を完全に包容し、水にも適度に溶解し、而も半途に崩壊する憂なく、尚溫雅なる芳香を發して爽快の感を與ふ、殊に本品は本邦人の皮脂分泌多量にして粗糙なる皮膚及漆黒を貴ぶ毛髪の洗淨に應ずべく、原料の選擇に又製造の工程に特別の注意を拂へるが故に、沐浴用化粧用として日常水と共に須臾も缺く可からず、洵に衛生に適し經濟に合する理想的石鹸なり。

定價 一個 金參拾參錢
 定價 一個 金四拾錢
 三十一番 金四拾五錢



ミツワ家庭薬 發賣元 ○ 丸見屋 商店

丁巳年律支店 觀音支店 長樂支店
丁巳年律支店 觀音支店 長樂支店

[illegible]

混入調査 五月中の赤米
 肥石山への調査口数は三口に
 五月中旬の二合中に赤米の混入

當選通知書を發達せるが密木浦公會堂に於て開選の管な
る。當選期日は當選の日即ち六月が當日は同會則及び役員を重
三一日より五日間にして六月より一處ちに諸顧客を附屬する筈

新設成立し目下其の工事に努
 ましたるが事務所は六所、新設
 したての建ち置り二階建八十に
 上るを合して、事務所四處、
 製國會社開業
 日未だ迄なり、(安東賜)

して開き、披露の宴を張るべし
(新魏州)
山眞託文配人決定 晴山来
社面役にして晴山支店長なる平
奉常該氏就任に決したり 群出

